

豊 遙秋 永年会員



授賞理由

豊 遙秋永年会員は自身が持つ卓越した鉱物肉眼鑑定技術により所属していた東京大学総合研究博物館及び産業技術総合研究所地質標本館の研究業務の一環として標本の研究、登録と管理というキュラトリアルワークを行ってこられました。収蔵標本の中にはラベル等が完備されていない未整理なものも多く、それらを含めた標本群の困難極まるアーカイブ化（鉱物同定、データカード作成、ラベルを付与した標本を分類群ごとに標本庫へ配置）を積極的行われ、収蔵庫内におけるデーナやストレンツの鉱物分類体系の実体化という大きな博物館学的業績を残されました。その過程で「The Wakabayashi Mineral Collection」「東京大学総合研究資料館所蔵鉱物目録第1部～第3部」「岡本鉱物コレクション」「木下鉱物コレクション」「南部鉱石標本」などの鉱物カタログを発行され、多大な博物館学的業績をあげられてきました。上記カタログには閉山した国内鉱山産標本など現在入手不可能な標本の鉱物名・産地・産状・標本の記載が記述されており、新たな分析技術などを用いた研究のための試料の選定に大変有用であるため上記カタログは極めて重要な資料として利用されています。そして多くの情報が付与された標本は研究用試料として活用され鉱物科学の発展に貢献しています。一方、記載鉱物学の分野では和田石、カリ定永閃石、プロト鉄末野閃石など5種類の新鉱物の発見に寄与されています。また産総研在任中には地質標本館館長として地質標本館の展示普及活動に携われ、「日本の岩石と鉱物」「検索入門 鉱物・岩石」といった一般向けの図鑑を執筆され、さらにご自身で撮影された多くの鉱物標本写真を教科書や雑誌グラビアなどに提供されました。よく整理された標本は他博物館特別展用に貸し出されたりマスコミによる標本の撮影に用いられたりしており、外部から依頼された標本利用業務を多数対応され鉱物科学の普及にも大きな貢献をされました。産総研を退職された後は秋田大学、京都大学など日本の各大学の鉱物標本レスキュー活動をボランティアベースで行われ、未整理鉱物標本のアーカイブ化を進められ、それらの結果を「秋田大学鉱業博物館所蔵目録」「第三高等学校鉱物標本目録」として取り纏められました。また福島県石川町からの依頼により町内施設所蔵標本の調査に携われ「森鉱物標本」を執筆されています。上記のレスキュー活動により2015年に日本鉱物科学会表彰を受賞されています。

このように、豊 遙秋永年会員の長年にわたる博物館学的業績とそれに伴う標本利活用による鉱物科学への貢献、幅広い教育普及活動、そして日本各地の施設に収蔵されている未整理鉱物標本のアーカイブ化への顕著な貢献は渡邊萬次郎賞の受賞にふさわしいものと判断され、今回同賞を授与するものであります。

豊 遙秋 永年会員の略歴

1942年、東京都に生まれる。

秋田大学鉱山学部鉱山地質学科卒。東京大学大学院工学部修士課程修了。

専門は鉱物学、鉱床学。理学博士。

東京大学総合研究資料館助手。旧通産省工業技術院地質調査所（現産総研）地質標本館・館長。

在職中、標本の鉱物学的研究、図録、解説書の執筆。および展示、普及活動、

専門家の立場から鉱物標本を撮影し、教科書、図鑑、雑誌などに貢献。

1987年から2年間資源開発専門家としてトルコ共和国MTAにJICAより派遣。

中国北京地質博物館の展示を指導、協力。

秋田大学、京都大学、東京大学の未整理鉱物標本のアーカイブ化を進め、資料目録を出版。

新鉱物および鉱物名・国内審査委員会・委員。

豊 遙秋 永年会員会員の主要論文・著書

秋田大学鉱業博物館所蔵目録

第三高等学校(現京都大学)鉱物標本目録

福島県石川町所蔵森鉱物標本目録

地質調査所収蔵今吉鉱物標本目録

京都大学総合博物館収蔵標本(比企鉱物標本)目録